

AR を用いた出会い系図書館の運用実験

小林 映里奈

図書館サービスは資料提供を主軸にしているが、近年は館内で行われる様々な活動を含めた「図書館という場の提供」へと変化している。しかし、図書館利用者はサービスの変化を十分に認識できていない。この原因のひとつとして、図書館利用者が持つ図書館のメンタルモデルがかつての図書館サービスに合わせた形で固定化してしまっていることがあげられる。そこで、本研究では、コミュニケーションにより生まれる知識共有を目的とした知的活動のサイクルという「出会い系図書館」のモデルを提案し、実現可能性について検討する。

現在、Web サービス等の仮想空間上では本を介したコミュニケーションが行われている。この本を介したコミュニケーションを現実空間へ応用するための手法として、本研究では、AR (Augmented Reality) の技術を用いる。図書館という現実空間にある本へ直接コメントを付与するために、現実空間の本と仮想空間のコメントを AR によって統合する。利用者同士が本についてのコメントを付与し、コメントによる会話を行う中で、図書館でコミュニケーションが起きるかどうかを検証する。

本研究の目的を達成するためのシステムとして「りぶこめ」を開発した。これは Android アプリケーションで、AR を利用し図書館内で利用者同士のコメントのやりとりができる機能を持つ。本に貼付された AR マーカーを Android のカメラで読み込むことで、その本に対するコメントの投稿や、他の利用者がつけたコメントへの返信ができる。このアプリケーションにより利用者は図書館内でコミュニケーションを行い、本に関する知識の共有ができる。

開発システムによる効果を検証するため、筑波大学中央図書館で運用実験を行った。図書館の図書資料 27 冊に実験用の AR マーカーを貼付し、アプリケーションを利用してもらった。実験の結果、全コメントのうち 30%が返信機能を利用したものであった。また、返信機能を利用して被験者間での会話が起ったことが確認できた。

以上の結果より、現実空間においても本を介したコミュニケーションが成立することを確認できた。今後の課題は、このコミュニケーションをさらに継続的に深く行うことで、利用者間での知識共有と利用者同士のつながりをつくることである。

(指導教員 宇陀則彦)